2023 年度

学校関係者評価報告書

2024 年 3 月

専門学校　ベルランド看護助産大学校
学校関係者評価委員会

2023年度学校関係者評価委員会

開催日時　令和5年10月20日（金）10：00～11：45
　　令和6年　3月14日（金）10：00～11：55

委員（敬称略）

委員長	森　均	大阪女学院大学・短期大学　教授
委員	酒井　ひろ子	関西医科大学　看護学部　教授
委員	奥田　尚美	大阪府看護学校協議会　会長
委員	西田　好江	泉佐野泉南医師会看護専門学校　副学校長
委員	澤﨑　隆志	愛仁会看護助産専門学校　事務部長
委員	西　智帆	助産学科同窓会会長

Ⅰ．重点目標について

重点目標１　**学生募集・広報活動**

取り組み	・学生が参加しやすいオープンキャンパスと見学会の企画運営 ・学校ホームページ・Instagramの企画運営 ・外部諸活動（ガイダンス）の積極的参加
結果	・学生広報主体のオープンキャンパスを企画。全体説明の学生生活を在校生が担当。受験生、保護者に看護学生がよりリアルにイメージできるように演習、歓談会においても在校生が主体となるオープンキャンパスを実施した。高度専門看護学科においては参加者から高評価を得ることができ、2022年と度比較して参加数が1割強増加した。 ・少子化が進む中で他校との差別化についてさらに取り組む必要がある。対象者の拡大が必要で、リカレント（大学生・社会人）を考える世代への取り組みが弱いことから、2024年度はより強化していく。また昨年同様学校訪問を実施し高校教員との連携を深めていく。

重点目標２　**教育・サービス**

取り組み	・ICT利活用による教育環境および機器の充実と教育効果の向上 ・リアルな学びを支えるシミュレーション教育の発展 ・実習施設との連携、看護実践能力の育成支援 ・助産師・看護師国家試験合格100％ ・学生相談窓口の設置
結果	・高度専門看護学科においてシミュレーション教育を通して、継続的な取り組みにより、看護の意味付けや批判的思考の育成につなげることができた。 ・臨床看護の実際では、OSCE 評価による試験を実施。突発的な事象や多重課題となるシナリオを作成し、臨床判断能力を強化できた。 ・先輩から後輩への支援を強化し、看護技術習得に向けた支援を行った。実習前後でのチュータ学生によるピアサポートを取り入れることで、学生間の相互作用を高めることができた。

	・助産学科はシミュレーション教育に取り組むことで学生が主体的に臨地での学びを深め実践力の向上をみることができた。分娩介助 10 例は遵守できたが、臨床の感染対策上の理由などにより平均経験例数は減少している。 ・スクールカウンセラーを週 1 で配置しているが、 ハラスメント対策も含めてより学生が相談しやすい体制づくりに注視し、WEB を活用した予約を 2024 年度から開始する。 ・国家試験の合格率は、高度専門看護学科 100%、助産学科 100%であった。

重点目標３　**コスト削減**

取り組み	・光熱使用量 5%削減 ・消耗品・教材物品購入の 1%削減
結果	・電気・ガス代の高騰から 2023 年度は使用量で比較を行った。光熱使用量に関しては 5%削減を達成した。ただ教室等でのオンオフが徹底できていない。継続して学生への指導を行っていく。 ・消耗品・教材物品についても継続して物品管理を行った。

重点目標４　**組織人材**

取り組み	・教職員の人的資源管理に努め協働できる組織体制の構築 ・教員キャリア支援 ・会議時間・残業時間の削減
結果	・ワークライフバランスについては、会議時間平均は昨年と比較してやや減少し、ストレスチェックの結果も昨年と比較して若干減少した。しかし全体平均と比較して高ストレス傾向は変わりない。2024 年度は学校組織体制を再構築し、法人の 2024 年度基本方針の「共創」を意識した主体的参画による学校運営をはかり、教職員の獲得と定着に尽力する。

Ⅱ　総　評

世界各地で様々なことが起こり、物価やエネルギー価格の高騰などその影響を実感する中、一つの大学校内では対応できない様々な問題が生起している状況にあると考える。しかしそのような状況下でも重点目標の達成に向けて努力されてきた教職員の皆様に敬意を表したい。

一方で、ICT の進歩は目覚ましく、GIGA スクール構想が前倒しして実施されたことにより、ICT にたけた学生が今後入学してくる。学生の期待に応える意味でも教職員の働き方を変える意味でも、大学校全体で積極的な ICT の活用に取り組まれ「進化し続ける大学校」を目指していただきたい。